

境町長田小学校第36回「アルゼンチンの日の集い」参加報告

宍戸 和郎

師走としては穏やかな好天に恵まれた昨年12月22日（月）、茨城県境町の長田小学校にて恒例の「アルゼンチンの日の集い」が開催されました。回を重ねて今回で36回目となります。※

午前10時、エドゥアルド・テンポーネ駐日アルゼンチン大使が、大使館スタッフと共に長田小学校にご到着。全校児童と教職員・PTA、町役場関係者、県議会議員・町議会議員ら来賓が総出でお出迎えしました。

校内会議室でしばし懇談の後、体育館にて「アルゼンチンの日の集い」が始まりました。まず、その年に実施された児童のアルゼンチン派遣事業について参加児童たちより報告がありました。2019年の第3回以来中断していた同事業ですが、2月の第4回（長田小児童8名参加）と10月の第5回（町内児童11名参加）の2回実施されました。現地での活動の模様が豊富な写真で披露されましたが、ホームステイした家族との涙涙の別れのシーンでは会場全体がしんみり。



その後は、児童による歌と踊りのパフォーマンス、感謝の言葉、プレゼント・花束贈呈と続き、最後にテンポーネ大使のご挨拶で締めました。



* 同校とアルゼンチンの交流の歴史については、当協会HP「アルゼンチンとの友好事始め」をご参照下さい。



左端は、境町栗原教育長

今回は、大使館からアルゼンチンの国花である「セイボ」の木の苗木が長田小にプレゼントされ、その植樹式が校庭で行われました。やがて立派な木に成長し、その特徴である美しい赤い花をつけることでしょう。



お昼には児童代表を交えて給食を頂きました。筆者は5年生と一緒にテーブルでしたが、次の派遣事業に参加し、是非アルゼンチンに行きたいと熱く語っていました。



多くの児童が両側に列を作り、車に乗り込む大使を握手責めでお見送りし、「アルゼンチンの日の集い」は滞りなく終りました。

特定の小学校とのこのような永年の交流関係は、他国の大使館では例がないところで、テンポーネ大使ご自慢の種だそうです。

(一部写真 境町ご提供)

(ししど かずろう：当協会常務理事)